



大和名所記

外類二
無

特別
ル 3
3617
81



大和國奈良 國中寺社名所舊蹟記

本末、高野山和奇之浦名不伊勢宮巡り次第

夫大和國の往昔神武天皇より移り山と切御まき
くつめて心裏と仰せを以ておのの世に
帝を以てあけいけ玉にまこ造りしのみならず
今ふむく神祇佛國名不旧縁その教を志すは
いづの法より遠近乃法人大和の分ると云は
る事後日くんにんともるは、靈靈佛靈社
の徳をたれまゝ威徳も、信もべし

くわろくやせん禁^{せん}福^{ふく}寺^じの老人^{らうじん}ぎん^{ぎん}とあり。つうがひありん
十^{じゅう}二^にがひといふ ▲長^{なが}目^め大^{だい}高^{こう}居^いけ^け内^{うち}よま^{よま}い^い福^{ふく}十^{じゅう}月^{げつ}廿^{にじゅう}七^{しち}
日^{にち}内^{うち}さい^{さい}ま^まいのせ^せろ^ろ志^しさ^さく^くのこ^こと^とあり^{あり}し^しく^くの^の志^しさ^さく^くの^の志^しさ^さく^くの^の志^しさ^さく^く
ち^ちら^らる^るあ^ある^る林^{りん}の^の者^{もの}井^いと^とと^とり^りて^てい^い万^まの^のは^はま^まい^いき^きん^んと^とせ^せに^にたり^{たり}
▲と^とを^をま^まの^の谷^や大^{だい}と^とり^りか^かの^のあ^あわ^わく^く池^{いけ}が^がな^なご^ごい^い谷^や志^しさ^さく^くとい^いふ^ふなり^{なり}
▲荒^{あらい}大^{だい}陣^{じん}大^{だい}と^とり^りお^およ^より^りか^かとい^いふ^ふなり^{なり}

▲か^かと^とか^かの^のと^とが^がい^いの^の井^いり^り物^{もの}と^とま^ま今^{いま}茶^{ちや}目^めあ^あつ^つて^てま^まう^うま^まう^うせん^{せん}
▲る^る出^で櫃^び大^{だい}と^とり^りお^およ^より^り東^{とう}の^のこ^こに^にか^かり^りし^しとい^いふ^ふさい^{さい}ま^まい^い乃^の
と^とれ^れや^やぶ^ぶさ^さの^のる^るとい^いふ^ふが^が先^{せん}守^{しゅ}さ^さり^り。天^{てん}社^{しゃ}ま^まを^をか^かと^とが^がれ^れと^とい^いふ^ふ
▲年^{ねん}ご^ごとい^いふ^ふの^の志^しさ^さく^くな^なり^りを^をそ^その^のう^うと^とま^まい^いか^から^らが^がの^のこ^こと^とい^いふ^ふ
▲か^かご^ごび^び不^ふ。毎^{まい}年^{ねん}十^{じゅう}月^{げつ}不^ふ忌^ぎ本^{ほん}の^のい^いで^でん^んを^をこ^こと^とい^いふ^ふ日^{にち}廿^{にじゅう}六^{ろく}日^{にち}に^に
か^かん^んも^も人^{にん}さん^{さん}け^けい^いし^しと^とや^やぶ^ぶさ^さ先^{せん}あり^り。日^{にち}板^{いた}ま^まう^うま^まや^やも^もし^し

らん^{らん}じ^じや^やじ^じあり^り。廿^{にじゅう}七^{しち}日^{にち}中^{ちゅう}大^{だい}小^{しょう}名^なよ^より^り居^いり^りる^るり^りる^る
さい^{さい}ま^まい^いの^のし^し身^みあ^ある^る守^{しゅ}に^にい^いと^とぬ^ぬあ^ある^るは^は伶^{れい}人^{にん}の^の舞^{まい}あり^り。す^す
ま^まよ^よあり^り。そ^その^のち^ち還^{えん}津^{しん}津^{しん}秘^ひゆ^ゆん^んを^をの^のぞ^ぞく^く。日^{にち}廿^{にじゅう}八^{ぱち}日^{にち}
四^し夜^やの^の結^{むす}あり^り。▲陣^{じん}守^{しゅ}池^{いけ}か^かご^ごび^び不^ふ忌^ぎの^のり^りと^とい^いふ^ふ
り^りと^とい^いふ^ふお^およ^より^り池^{いけ}の^のか^かご^ごら^らあり^り。か^かご^ごか^かの^のま^まり^りれ^れか^かみ^み
る^るれ^れを^をま^まよ^よと^とま^まい^いの^の志^しさ^さく^くの^のふ^ふり^りま^まの^の力^{ちから} ▲雪^{ゆき}清^{せい}の^の沢^{たけ}
か^かご^ごび^び不^ふ忌^ぎの^のま^まり^りを^を丁^{てい}ど^どう^うり^り東^{とう}南^{なん}へ^へゆ^ゆ。あ^あを^をれ^れ乃^の小^{しょう}沢^{たく}か^かご^ごら^らも^も
こ^こら^られ^れて^てゆ^ゆま^まい^いの^の沢^{たく}小^{しょう}神^{かみ}く^くぬ^ぬく^くま^まい^いの^の裏^{うら}ま^まう^うと^とま^まい^いの^の志^しさ^さく^くの^の志^しさ^さく^く
▲麻^あ道^{どう}を^をか^かぎ^ぎ川^{がわ}を^をつ^つき^き川^{がわ}と^とい^いふ^ふ。大^{だい}明^{めい}林^{りん}麻^あに^にか^かり^りつ^つ
あ^あよ^よゆ^ゆん^んま^まつ^つあ^あり^り。板^{いた}ご^ごと^とま^まい^いの^の志^しさ^さく^くと^とい^いふ^ふ。石^{いし}を^をつ^つき^きを^をら^ら
と^とせ^せん^んの^の櫓^ろと^とい^いふ^ふ。こ^これ^れよ^より^りは^は林^{りん}か^かへ^へ二^に乃^のあり^り。か^かご^ごら^らも^も
西^{せい}の^の屋^や地^ぢ蔵^{ざう} ●本^{ほん}侯^{こう}屋^やの^の屋^や ●上^{じやう}の^の屋^や ●瓦^わの^の屋^や ●新^{しん}造^{ぞう}の^の

屋より。ちよび五ノの屋といふなり。奥縁を借まゝいめら
さんろして。天下泰平國土安全淨行請あり。その外
屋多し。これをさやくと。太い本道 ▲車屋殿より
くるはのりものともゆりさす。赤くした五位よりあり
うらまそ守持は又きのくまきまの社にを死とぞまは
●二の考居へ考居らたをきたうまの系されやありまう
まはへ四方の社社く ▲後戸社せとうつひこ社なり。
社せん社のそろうろくに幣あり。これそとくひ身とまよ
め社社系系よりく ▲社がさの表とくひどの社の部が
かゝるより ▲社社のりり社下をいりしまをせむを
ぞのころかどが社社のろく たちよる二名あり。太れくそ
ゆけが表割殿かどがまうりの勅使つとまごが役人

しとと表割のせりおくたり。たと初バ表の考
居じりいあらのもま嘆もされけさる。その考
かまそそのらひ考居のた太のつらけらく板釘を
けくゆきて。かのあらりさうりを考居してまぐつと
しととあり ▲まよらつさくもかせよあら社よりい
もみ社社よりけ ▲西廊 西ふ三門あり。南の表
門中の傍に門門小いまい門 ▲まよらつ川けい門
と入て小よりるが考居をまき川をいふ ▲まよらつ川
まよらたをれよまを死してんもまめる社社のほまんに
▲直會殿ありけハくうと社をまよらつハくうのやと
のよけまよら殿あり。まうりのせつちばに幣とこまら
らるるあり。かろるあり ▲まよらつ川のまよら

つぎまきのこと。まいー門と入てたぐいのましあなり

▲ほむさりの社。之見宿祢命 摺奉明神 大山上唯

神 佐軍神 思姫海奉明神 大相毛命 粟津社大

碓弁命 八雷神 皆まじ大まやごてんのりしあなり心

院に小社二存あり。南西向いたちうとの社。小の方いひら

いてん志ん天中 風神社 立田神社 大文津殿いぬいれ方

南向く志奉明神 照神 大文津殿より物下さう乃方

▲春日大宮四所。一の津殿とけいづられこと。この津

殿といぬーのま。この津殿あまうる糸のま。田の津殿

いめゆんぐと二ふらう門ままむき津新向かうとく

天宮の津宮志んごけいん二年十一月九日津供まの時

風秀ひてと終り乙卯と卯和六年と元一子四年にる

まろういひんめう一五まうかやう二年九月にさう

ととひでりく。とドめてさうりんをてのらみせい

一五まうでうらん元年十一月九日かの人さうの夜に

めてまろうあり。まの終ん二月十一月さうの日よりいぬ

の日もぞみさまり。さうの日ちりし。ち志さく

るのあり。これさうかこと。さうらん元年より卯和

六年まで九百二十二ふたなる ▲志んごま 大まや太

の方。あひまの屋あり。 ▲あをさうま かくさ

くさく ありさう 井ぐう 志んごまよりさうまの方の

やうさうなり ▲あんりん二くさうか。はまふあ

まじしはまうがうのりあり。あまのまは日まふあり。

くうありにまにまかざうまとあまあさける。すけ

あつまんをのさへひ大をんや一ぶおまめ。はきとめん
のぞくにかしとま。▲ふしやうのそりめよいか
乃こまこのそりそりふ 春日古記ありがむやふしやうの
うしとちわうそむひ布のかづくそくそくましき
▲まろまやげらん小社一どりしやうまんふしやうのは
うしやうまのそひがーぶ ▲あんどうやうまん ▲ひやう
すやうまのそりそりてんのそりそり方なり ▲まろま
や一所あまのそりそりてんこと。大やうまんをかきとめ
うりやうのそりて二百二十六ひめ。一でういんのさやうちやう
やうま年二月之日はあむらびん。さうとそりそりてやう
まし。このごてんへうつーまじしよ。ゆれ六年まを
七百六十五年にいなり。そのおら百二十三ひめ。一あそく

いんのさやうちやうせうに年二月廿七日をうしやせん
ぐう。よく移んやうま年二年九月十七日にさいさい区
まろ。そのおらま年やうさ中より十月廿七日に
さいわんは小社あり。まきさいつがうまんまきさいとらう
と。そりしてりやのさ種ハかんや一家のいせい
なり。まんでんまさい移ん二月たき社のうりせい。
ま日定存社のうあり。はま年まかきとめあり。はきさい
すくのらまんと ▲二十八社かんやまきさいあれい
のそりそりまきさいとまなり ▲さらけやうまん
二十八社のまよこの方なり。程まよこの方にいそ
るまあり。げら上人やうまんへらまさいあしあそ
ふ ▲磨んごてんまらまらうまきさいとまなり

▲きいの屋しり日さぬ林 してさける林 こほひめ
神あり ▲悪のそこの屋しりさる回ひこの林太る
あんのやのそこの屋しりふおります。さうさんおらも
なる。あをささせいさうのはいさうまらりかたひ
らうーちうくごん 春日古記 せつさうおらとさうり
神といさうあよりさふちう。即身即仏てさう
まの日はおよりほうとさくのへさういさういれ
をさうと ▲あんの屋しりさうそ神あかやを
はさうさうはふせんがさなり ▲あんのやこのや
にさうかいのあうさう。さうーさういれさう
とさう先あふげらう門をらさき徳人これとさうい女人
さんせいん ▲さうのちらさこのとさうとさういれ
おんせいん

おんせいんさうまい移ん四月と日より又日よでのうあり。
あんののののののののの中やくびさういさうまされこの
屋しりさうあかやとさうしさうさうとさういれがま
げんさうさうらにあり。さうまいとさういれ。かたが
さうをのさうらとさうけて神さうさうとさうたのひか
▲これよりさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
百十一石四斗余。さうさうさうさうさうさうさうさう
▲さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
ま本集のさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさう。はさうさうさうさうさうさうさう
あり。あふ火げさうさうさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

初はをさるゝ人中にうろてゆさるへーと禁けし
あふれびやうあんのちんとんおーまきざんが「ゆ」の
しつふおやうのいそくまてさうしてちんたやうせを
あやうしんさんぞこころいむくさんと。れをほきて
あつらぬそのらまにぶおあてくせんへひくか
けてまゐるあつこさうさう久らんせんをゆき
しやうちやうは。あつこあててゆくまてうろ
くおあつこさうさうさうさうさうさうさうさう
十一んちんせせん。のあつらうさうさうさうさう
のさんのうてさうさうさうさうさうさうさう
あつけ乃ごせんあつこせんしてひくさう。まのせん
二月朔日より十四日まで初はあり。まよあつこせん

しやうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
つしやうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
務室四年より明和六年まで凡十二年おこなふ。
とらよ寛文七年二月十日さうてん。あつらうさう
火し一冊はせんしやうは。そのまきざんしよあつは日
九年にさうさうさうさうさうさうさうさうさう
さうのさうさうさうさうさうさうさうさうさう
まよこの方なり ▲まよがせんあつこさうさうさう
のあつさうさうさうさう ▲あつ井さうさうの井と
つしやうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
のあつさうさうさうさうさうさうさうさうさう
くさうさうさうの務。あつらうさうさうさうさうの

高よりくわんどのしこのほくさあり。かんさう
二終ん六月廿日あり。四年八十六才。▲志ある
口より九尺一寸二ぶ。こうさ一丈二尺六寸。ありさ八寸より
多く。相み万二千六百八十斤。くくらう二千二百斤
引く。おのむろじき名はけうわらるのりひれきさひ（去る）
▲大ついでん今相十六丈よりやまがら。ゆきけみ丈二尺
寸。サリて長さ一丈六尺。しりさ九尺五寸。まゆ尺五寸
六。同長さ二尺九寸ゆくら三尺七寸。くまれくら三尺
あまよりけし一尺。きくまざら八尺五寸。らわら九百六十六
たし一キより二尺五寸より一尺。ゆきのまより二丈八尺七
七寸。ゆきよりうてままで一丈八尺五寸。まより長八尺
六寸。中い尺のうり尺五寸。いざあつさ七尺五寸

のまより一丈九尺ありのうし一丈二尺。まきけぞう
さたき一丈五寸より六丈八尺。まみ尺十寸。いさとりく
まきるとまきさうああり。こうさうたき八丈二尺。ま
より七丈八尺ありさ八尺。いり併十六尺。けハ
尺。まきさうまきんかんこうさうゆきけ二丈五寸。ま
てんよりゆきけ二丈五尺。ゆきさうたき十
尺。六尺。ゆきまきさ。まき二十二人。まき二十八
け。まきさうまき九十八人。まき百十人。まきさうまき
七十六人。まき。ちりしん二てんびし。まきさう十八
ゆきさうまき。まきまきまき。まきまきまき。まきまきまき。ま
まきまきまき。まきまきまき。まきまきまき。まきまきまき。ま
まきまきまき。まきまきまき。まきまきまき。まきまきまき。ま

大づつでんざう多ければあまよひつらりしと多
 くらうあまのものをさかかへにこらうしう又百人の
 あらひんといさざう。かぢをんよりのかぢをんと
 さくじさうちんえんのじろりのふんよびのう。あを
 うてううのふそのあへんをさそて。又百金糸の
 むらぎんとあぢをんとさまらる。今ふまのせんあへ
 くらうきやうつと大づつくらうのさうにちやくてう
 ありしふいづつものいづくをんでんちやくしう。ふんがさ
 くらうをまほへべし。ほつりいあまらててさうし
 くらうしうあるべしと。さへありしにばすまらるさ
 きがくらをせんざらしし。百人のそうをよびまぢぶ
 けんごうたのしととせらばの余まといまはほるべし。

ういひさそまらるらるらるに。十をみとあはし
 ちひあつていさうらるらるらるらるらるらるらる
 ともけてさかすらうのものとさうてわさそあひらう
 縁記のかいらあよとまのちぢいあうてえんはまわらうら
 同 かいらあよとまのちぢいあうてえんはまわらうら
 天平勝宝四年四月九日大づつのかいせんくらう。ま
 いてんまうのさうだうしうあぢいそしうのちん
 くらうしうせんさうさうらるらるらるらるらるらる
 くらうせんさうし。せんせんし二百人はいよ六人
 二百人といし十人せんげし十人せんげし百人あ
 ち二百四十人そのやうしゆさうしゆ八千八百
 九十四人はさうきやう二十六人せんげしゆさう元年

より明和六年まで子十一年にたり。于時ぢりより四年十二月廿六日たりの志げひらきとあんのせんらり
とそりーあんらんらりし。日廿八日大ぶらでんをまきか
らせり。とまらうのあうらう大ぶらでんをまきか
ふくまげさあひて。志あんでうぶらでんをまきか
て。大らんどんの志うくにあせられ。ちうく志あんのま
りちて。志うくらんどんし。せんをすくあひせん
あひて。志あんの二年四月十九日はらとあそま
る。修師らんらんけい。日本をまきかすけ。あうら
うけいらんけい。ちうくあひけい。大まのせのふ
のくばあそくまらしま。ふまひひかう。せんぢららん
八月廿七日たよりあうらうはゆさまら。ちうく

とまらうのあし。あひのあひせはくかんあう。そのち
らんまらう。二年三月十一日らり。ちうくあひ
だらうらんらんらり。ちうくあひけん。そのあひも
志あんの。大平のらり。とまらう。より
十まんまきとそりー大ぶらとことぢらひまごせり。明和
六年まで元又百七十八年にたり。志あらく十月
十日松永らんらんらり。ちうくあひて。大ぶらでんをま
ららほせり。明和六年まで元又百六十八年。ふらでん
のくまら。十又又六十八。ちうくあひ。南山三十
一かん。ちうくあひ。八十八かん。南山百かんまらり
▲ちうくあひ。らんらんらん。ちうくあひ。大ぶらでん西の

ぶやうきんむ **▲**あんどう門二王あり。日本ふる

なり。天平福んげうどらうつらうなり。宮寺川吉城

川ともいふ。あんどういんのみまをあらがく川をらふ

▲いむら社中のほそあのみまをあらがく川をらふ

種 西本種なり **▲**いむらの種 ちあをいんといん

いむらあり。ちあをいんをらうのあまなり **▲**とら

まのぢみどり池の西ふらひさたうく **▲**ふらひさたうく

奈良 **▲**ふらひさたうく **▲**ふらひさたうく **▲**ふらひさたうく

▲くさ井坂とらうとれうし **▲**くさ井坂とらうとれうし

八良 **▲**くさ井坂とらうとれうし **▲**くさ井坂とらうとれうし

とらうとれうし **▲**くさ井坂とらうとれうし **▲**くさ井坂とらうとれうし

とらうとれうし **▲**くさ井坂とらうとれうし **▲**くさ井坂とらうとれうし

とらうとれうし **▲**くさ井坂とらうとれうし **▲**くさ井坂とらうとれうし

とらうとれうし **▲**くさ井坂とらうとれうし **▲**くさ井坂とらうとれうし

とらうとれうし **▲**くさ井坂とらうとれうし **▲**くさ井坂とらうとれうし

とらうとれうし **▲**くさ井坂とらうとれうし **▲**くさ井坂とらうとれうし

とらうとれうし **▲**くさ井坂とらうとれうし **▲**くさ井坂とらうとれうし

とらうとれうし **▲**くさ井坂とらうとれうし **▲**くさ井坂とらうとれうし

とらうとれうし **▲**くさ井坂とらうとれうし **▲**くさ井坂とらうとれうし

とらうとれうし **▲**くさ井坂とらうとれうし **▲**くさ井坂とらうとれうし

とらうとれうし **▲**くさ井坂とらうとれうし **▲**くさ井坂とらうとれうし

とらうとれうし **▲**くさ井坂とらうとれうし **▲**くさ井坂とらうとれうし

とらうとれうし **▲**くさ井坂とらうとれうし **▲**くさ井坂とらうとれうし

とらうとれうし **▲**くさ井坂とらうとれうし **▲**くさ井坂とらうとれうし

とらうとれうし **▲**くさ井坂とらうとれうし **▲**くさ井坂とらうとれうし

とらうとれうし **▲**くさ井坂とらうとれうし **▲**くさ井坂とらうとれうし

とらうとれうし **▲**くさ井坂とらうとれうし **▲**くさ井坂とらうとれうし

とらうとれうし **▲**くさ井坂とらうとれうし **▲**くさ井坂とらうとれうし

あつてんちとんまう八年かまゝううらむしあひてのち。
四十二年つるあの大どん正のんらんくゝうううらむら。和
どろこ二年くやうら。七やううらうらんのまきさうらわわ
ぶやうのあやううとわくまうとあう。明和六年ませ九よ六
十年にたり。 ▲ううらううううううううううううう
うううううううううううううううううううううううう
の大どんはんやうう。むらまらりのひらあらうらぶあふ
大どん母の正あふ。てんまう七年にううううう。明和
六年ませ九よ六十年ふる。ゆいまあをいじううあて
あううらうう。げらんくううの大あううんらうううういあう
うい。今うとわううううううううううううううううううう
うううあまゆいまあうううううううううううううううう
うううあう。ういをうううううううううううううううう
てんうう。はんととくううううううううううううううう
大どんのはやまういあううううううう。大どんうううう
この大どやうういあううううううう。七年にううい
ううううううううううううううううう。 ▲東のうううう西の
あうううう。東のうううう西のうううう。うううううう
あうううううううううううううううううううううう
いそあうう。そのまのあうううううううううううううう
▲あうあううううううんうんうううううううううううう
せあんうううううううのううううううううううううう
うんうううううううのうううううううううううううう
明和六年ままで九百四十九年にたり。 ▲西のうううう

ぞん丈六の志やう十才ぶ。ひごうの志やうでいらんをん
あよといつらんらんせんやう。ざんぜんさうやく地をう。
ちい十一めんらんをんやうつらうらんをんごうやう
志んてんやう八知げさいてんさう。ふいつらうさうあ
かひらちらうふ。めうさうおらうらうせんやう
あんちんてんさう。てんさうあらうさうがう入師
さく志移んゆたあらのらんせんあう。げんさうあう
くらうさうはくたならなまのさう。さうさうさう
のほちあよてんさう。六年二月十一日にげんさう
やう。明和六年まで。ふ二十二年にけんさうせんさうの
らんやうてんぢくけんらんさうのさう。てんさう
志んのらんをんとおがさんとちうさう。あふ日やま

くらうさうらうさうさう。さうさう志やう志んのらんをん
ほちあよゆたさえてんさう。さうさうさうさうさう
ぶらうさうさうさうさう。あうさうさうさうさう
日やうさうさうさうさう。さうさうさうさうさう
さうは母のさあにあらうさうさうさうさうさう
志やうのさうさうさうさうさう。けんのををれるさう
さあのおさうさうさうさうさう。さうあふ志んあう
やまかさうさうさうさうさう。さうさうさうさう
の志移んゆたあらのらんをん。志あらうさうさう
かささうのさうさうさうさう。のつけさうさうさう
さうさうさうさうさうさう。さうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさう。さうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさう。さうさうさうさうさう

あんざいさんねんをたてしむりしなりあんざい
とさうせんをまつるふらざんぬりていせんざん
らんしあきせんといふあかぢくといしせんま
ありかたまさいがうなりけいせんつさきせん
せんけんけいをあらかり十二てしあり
▲あんざい
はうくやうをさうま六のこりく八びふうけんざん
らんせんらざうのうに志かのういせあきさせん
るせんびよてんまうれざうありそししてせんざん
ながざうたどんうちまあのせんまうだういせん
かんせんたどやうたせんふゆぐさう由まじしてせん
ううのころ終ざうとせんげんをあらさうせん
アうなり。明和六年まで九百六十九年にたり

六組師はあいのあり。かゞい。組師をけいせんを
だうして共とみる。だうのまふとさうらうあり。あ
いのかりや大師のさくともや ▲せんざん
一とぬりのせんあ。たさかろい。せんあり。せん
せんせんつれるといふとせんれさうつれにせん
まー ▲せんざんせんざんの大まうのせん
仁と申中に大乃川せんざんせんせんせん
たうせんつらうのきとせんといのうせん
せんげんしなまう。さうがうけいせんせん
▲さうがうし願がせん願せん。願せん。式万六千
は十六石七斗余。円式万式千十九石八斗余。さ
ぶくさうせん。さ子に百八石九斗余いせんせん

志やまきしりかぬしあやけちりけにせよまふ六百六十一石
 八年余ハ縁道中に於てまふ。むとがの申一石の二平一
 りふはざうあいつまう式百石ある。 ▲あやむい
 志やうむ天まうのさむたらうあうらうらうらうらうらうらうらう
 志んちうのあまうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらう
 びやうのそのをへあうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらう
 けらうの湯をいりあうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらう
 志らうらうらうらうらうのそのとさうらうらうらうらうらうらうらう
 夫ど大徳のつまぐらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらう
 あやむあうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらう
 らうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらう
 ▲せんあやむいんまうらう十石代わうらうらうらうらうらうらうらう

七年にけしんあやたのよこゆいなる。うらうらうらうらうらうらう
 いのんがぬだうとてそらうあやとあまふらうらうらうらうらう
 のりんよ夫一社さうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらう
 十二さうのむたうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらう
 ハらふはく。其のくまてんらうらうらうらうらうらうらうらうらうらう
 のさやうをむとめまふ。志んちうのらんしらんていは大
 せんあやむい一般いそらうらうらうらうらうらうらうらうらうらう
 ▲せんあやむいさうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらう
 むぞらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらう
 らうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらう
 二十四もさうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらう
 町はあれがらんちん今いもさうらうらうらうらうらうらうらうらう

みらのやぶら

一 ぐさく 一 ちし 一 ゆきん

一 さけ 一 りんよ 四郎小刀

一 まんぢう 一 西大寺やうきん

一 三秀亭のぢんたんぢん

右の介めいぢん

大和良ヨリ 東西有山社名不詳後ヲ記ス

▲大和一室ハナミダん。東西の平地井ノを六里余。南
水の池いちわい山よりさくふより。南ハよりの川まで
井ノを十里余。てんぢの敷を万七千九百八十九及二
畝有。あつハ一室の小なり。町敷九百八十九

南極東山よりもの山まで

▲めんみくせん多んやう。おのまきこらうおせう。めん
ぞんこぞ。あつしめん多んまう。さむらう二百二十及
堂を一ろやう。あつやうあつらう山林所し。あつ
より一里はひらうらなり

▲がぞいせんやうアヤクモ。たんもん傍りのくんじょう。
本ぞん属し。志げしあんとちまう二百五。社
がうあや室のり山林あり。あうより二里南にけし
苗山やまぶしせんらてう。かくしせんちあり
▲あまびせんじょうくさいあまうがたりのあいた
本ぞんあんかんなり。志げしあんとちまう百五堂
とう坊。山林あり。あしと七月十五日よりハ
うくまごいたまうとふらう。あまびせんじょう
やまひのあまごといふ。あまびせんじょう
▲むろあざんやう。あまびせんじょう。あまびせんじょう
かんせんらぞうハあまびせんじょう。あまびせんじょうハ
あまびせんじょう。あまびせんじょう。あまびせんじょうハ

アまびせんじょうのあまびせんじょう

▲あまびせんじょう。あまびせんじょう。あまびせんじょう
ようのあまびせんじょう。あまびせんじょう。あまびせんじょう
あまびせんじょう。あまびせんじょう。あまびせんじょう
あまびせんじょう。あまびせんじょう。あまびせんじょう
▲あまびせんじょう。あまびせんじょう。あまびせんじょう
あまびせんじょう。あまびせんじょう。あまびせんじょう
あまびせんじょう。あまびせんじょう。あまびせんじょう
あまびせんじょう。あまびせんじょう。あまびせんじょう
あまびせんじょう。あまびせんじょう。あまびせんじょう
あまびせんじょう。あまびせんじょう。あまびせんじょう

かいらぎー合さうじんきまくだうさうまじざら
まじーやまじらうさう。山林あり。ふりけがら
さうぶらうさうよけまじらう六百余人あり
▲よー世ふさんぶせんだ。あんのさやうじやのり
さ。あんぞんぶらうくのがまじらうだんまじら
あんどん。まじらうさる。たうさうまじらうまじら
とらう山林あり。やまじらうさうまじらうまじら
し。さうざんぶらうせんざらとらう

▲だんさんぬふのさひー本あや大さよらんさう
しーてんさうまじらうまじらうさうたうまじ
あやらうあり。山林あり。さうあやまじら
あさう七里さう井むしーさうまじらうまじら
のさう。女人さんむいたらう

▲はがさうありけだ。あんさんいさうのさうんせ
とん。まじらうーあんどんまじらうまじらうたうがら
あや山林あり。さうさう八里あたらうらうの
うららあり

▲さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
あよ。まじらうさうさうさうのうさ。本さん土さう
あよいっらんあんとん。まじらうーあんどん。まじらうさう二十
ふ。さうさうまじらう。まじらうさうさうさうさうさう
あさうさうさうさうさう

▲たちらうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさう。本さんたうーニサ十六サ二十サ

△いゝぬぎさきうん。いゝぬらぬつらこのぢんば
なり。ろろもんからいゝまつりやうあつ。山林
あり。あんど八月十日大まつりあつ。のぎさき
あり。あらよりこつたまふ。

△いゝぬちくさん。いゝぬらぬつらこのぢんば。な
そんりんもいゝ。あつ。あつ。山林あり。

△あんど。いゝぬらぬつらこのぢんば。あつ。あつ。
あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。
あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。

△あんど。いゝぬらぬつらこのぢんば。あつ。あつ。
あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。
あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。

△あんど。いゝぬらぬつらこのぢんば。あつ。あつ。
あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。
あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。

△あんど。いゝぬらぬつらこのぢんば。あつ。あつ。
あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。
あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。

△あんど。いゝぬらぬつらこのぢんば。あつ。あつ。
あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。
あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。

△あんど。いゝぬらぬつらこのぢんば。あつ。あつ。
あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。
あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。

△あんど。いゝぬらぬつらこのぢんば。あつ。あつ。
あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。
あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。

△あんど。いゝぬらぬつらこのぢんば。あつ。あつ。
あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。
あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。

たうがうやあうありふさやーとう井のふら
より四つあーなり

△およやうさんあえまてく。まあこきんとう乃
はこんとう。本おんさんとうとやうくの土ぶの
らんく。まんごい。きんーいあんとんごうどこきん。
まっやう。二百ふ急ーき四月十四日移うらん。
きんーやだうきんーあうーやきんーあうきんー

△おづきさ山らんがうせんド。かいえんあんのきんーや
あんとんほきんがまらぶどうごまうなう。きん
ーいあんとん。おあう。きんーやうまうこすふ急ーき
み月りしの日。ふらよりう。きんーあの本まきまきげか
まらあーあう

△あんがうせんさんあくがんときんせんをづの力
らんくあさうらあんとんをきんーやきんーあ
とにぬるぬる。本せんらん世せん山林きん

南都よりみるき平地

△ううきんぎんしやくうらト。かいせんあそきん
ーやう。あんとんあこときんーい。まらきん。あまう
あ石たきんきんきんーい。きんーい。きんーい。二月八日
ーきんきんきん。あらあきんきんきんきんきんきん
のやうきん

△あまらう四社きんきん一のあてん宛次の林。二の

はてんぬりさじふくのみにし。このはてんあをさる
まにあとあをさる四のはてんぬりさるまにさるまにさ
あらあの出ららより十丁あぶあぶさるさるさるさる
さるさるさるさる

△おびぬたてり。くんでのぢさるさるさるさるさるさるさる
さるさるのほんさるさる。あらあさるさるさるさるさる
△さるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさる
さるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさる
あらさるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさる
いづれさるさるさる

△さるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさる
さるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさる
あそんとさるさるさるさるさるさるさるさるさるさる
さるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさる

△おびぬたてり。くんでのぢさるさるさるさるさるさるさる
さるさるのほんさるさる。あらあさるさるさるさるさる
さるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさる
さるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさる
あらさるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさる
いづれさるさるさる

△さるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさる
さるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさる
あそんとさるさるさるさるさるさるさるさるさるさる
さるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさる
あらさるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさる
いづれさるさるさる

うまき。あんぞんわんざい。やまー。きんー。きんこん
ふどー。せんごう。お。ひんか。う。ある。きん。ま。二。月。廿。日。
ふら。う。田。一。亩。な。か。の。きん。さ。ん。し。ん。が。い。

△井。や。ま。き。ら。と。だ。ま。の。きん。や。お。ん。を。ま。さ。だ。い
と。や。う。きん。た。う。つ。と。な。さ。う。きん。た。う。

△あ。お。一。だ。い。さ。う。う。し。ん。け。つ。の。きん。ゆ。き。や。う
い。ち。り。う。し。ん。ご。う。の。い。ち。せ。う。きん。ご。う。に。あ。う。

△こ。わ。や。ま。び。や。う。ご。う。と。お。ん。ぞん。ぢ。ご。う。き。し
きん。ごん。こ。わ。ご。う。きん。ご。う。きん。た。あ。な。じ。ら。の。きん。ご。と。

△八。四。方。お。きん。ご。う。きん。ご。う。お。きん。ごん。ご。う。ゆ
と。う。の。い。が。た。ご。う。きん。ご。う。し。ん。ま。う。や。や。う。きん。ご。う。ご。

△ま。り。や。お。きん。ご。う。きん。ご。う。の。きん。ご。う。と。きん。ご。う。に。あ。う。
△う。ら。う。う。きん。ご。う。う。百。七。十。四。五。八。米。ふ。ん。ご。
お。か。い。きん。ご。う。う。きん。ご。う。に。あ。う。に。二。リ

南都より西もあままで平地

△こ。う。ご。う。に。い。ん。きん。ご。う。きん。ご。う。お。ん。ぞん。あ。ご。ご。
きん。ご。う。の。きん。ご。う。ご。う。きん。ご。う。二。百。五。だ。う。や。い

ら。お。きん。ご。う。お。ん。出。ら。う。う。七。丁。西

△ふ。さ。い。ど。の。い。ち。あ。う。う。の。た。う。きん。ご。う。あ。きん。ごん
ご。う。きん。ご。う。の。きん。ごん。きん。ご。う。い。ご。う。きん。ご。う。ご。

又。十。五。きん。ご。う。月。八。日。ご。う。た。う。きん。ご。う。あ。う。
ご。う。ご。う。きん。ご。う。ご。う。ご。う。

△あ。の。お。きん。ご。う。の。きん。ご。う。に。あ。きん。ご。う。きん。ご。う。きん。ご。う。

▲さうせうとトハ。やうむてんさうのはげん。
ういさんハゆんトん大さうやうたり。きりしやうさう
さうやう二百五。き九月十九日よりは四日
まどい綿んおつあわう。まふあらしまのこくふさん
まやういごーとまらるるをいしあり。さうたう経
さうやうやうややわり。きさうとトより七丁南
▲屋くーさいてんちてんさうはげん。さうさん見
まきやう。やんぞんよさうろくの屋くーやうい
まらーあさきさうさう二百五。まふやれい
ぶら。さうやうやうさうさうさうやうやわり。ま
まき二月朔日より七日までさうさうさうさう
くのはげんをまさとさうせんふさそをうとあり。

ふらより二リありなり
▲大あんどハたいてんのあるはげん。七丁トはあ
ゆんさうさう。やんぞんらうん世さん。ちんトもせん
さう。まきさうとくたないのほさんさうのあ。じう
十丁四さうの大がらんまよ。さうやうさう。いはま
あり。ふらより十丁余らうトさうの方なり
▲かくあんどハさいこてんさうのほさんさうのま
せんさうさん。さうさうハさうさうさうさう二十
さうのあやわり。ふらより二リ余らうトさうの方
▲まんとさうせん大あんどハまきさうとくたないのほ
さんさう。やんぞん屋くーあさうい。さうさうハま
せんさうさう二十。さうたうあり。かくあんど

▲志んくろ田の社。志んくろの町の心小社あり。
 志んくろ田の社。志んくろの町の心小社あり。
 志んくろ田の社。志んくろの町の心小社あり。
 志んくろ田の社。志んくろの町の心小社あり。
 志んくろ田の社。志んくろの町の心小社あり。
 志んくろ田の社。志んくろの町の心小社あり。
 志んくろ田の社。志んくろの町の心小社あり。
 志んくろ田の社。志んくろの町の心小社あり。
 志んくろ田の社。志んくろの町の心小社あり。
 志んくろ田の社。志んくろの町の心小社あり。

南都七犬寺

▲東大寺 真言宗 寺領二千百石
 ▲真福寺 法相宗 寺領二万二千十九石

▲元興寺 真言宗 寺領五十石
 ▲法隆寺 法相宗 寺領千石

▲西大寺 律宗 寺領三百石
 ▲茶師寺 法相宗 寺領三百石

▲大安寺 真言退轉

右の左まといづるまといやあまといまといなり
 志のまといづる一寺一社といふまといなり

大和一国御給人御居城并御藏屋鋪付

- ▲郡山 松平美濃守殿 奈良、一リひつ申の方ちり
- ▲榊本 織田豊後守殿 同 四リ南をさへいりなり
- ▲小泉 片桐主膳殿 同 二リ郡山一リひつ申方
- ▲芝村 織田丹後守殿 同 五リ南をさへいりなり
- ▲高取 植村出羽守殿 同 七リ半南の方ちり
- ▲柳生 柳生但馬守殿 同 四リ東の山中りり
- ▲俵本 平野右衛門殿 同 四リ半南少西なり
- ▲古市 藤堂和泉守殿御藏屋鋪 同南出口十丁南東

- ▲紀州くろやさん ころろちりいーいさの山なり
- だん上ちりいんより入るくろやニーやスるくろいん
- 大たりのぬいぞろかいのたあら
- さいふちりいんがういのたあら、いぬいぞろ、こゝみ
- 六丁のちり、いんぞろ、ふどろぞろ、ふどろぞろ、だろ、四
- いんちりこのちりちりーや、まじりおみなり
- ▲はるれろろろ、さぬつーは、ちりぞん
- ちりーやろろいんがんの古なり
- ちりちりのちんどん ●ちりちりちりいんちりちりー
- ちりちりちり

伊勢ちりちりちりのちり

▲とぞいよと田まて一リはふのにおお母まての
川あり。たれとまやぶらといふ。母ちんいしとげ西へ
ましんべあまこいぞてけつととるなり。つとた
まうかり。たれまう一のまらあまてはハ丁あり。ふ
田へあつたらと母まびらまらといふ。ひらう乃
くふあまの屋一らあり。●月よこのまや●かぐ
らでん●一あけのまやたれまううた入傍つるま
まうとど●一のまらあ●まらあ一のほりん●さるが
まのほりん●せんまらあめのほりんひとまらあま
けらとまらまらなり

▲けらとまよけスどんぐう●まら一のまや●あう
けんのまや●あまのまらと●まらまがまら●大

をしあまらまらへいぞ。まらうへいぞある
おあいのふおまらあまらまらあまらまら

▲字浩まら一の川よまらまらまらまらまらまら
のまらまらまらまらまらまらまらまらまらまら
まらまらあまらまらまらまらまらまらまらまら
一のまらまらまらまらまらまらまらまらまらまら
りん●まらまらまらまらまらまらまらまらまらまら
まらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまら
まらまらまら

▲かいらあまらまらまらまらまらまらまらまら
●あまらまらまらまらまらまらまらまらまらまら
まらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまら

まじいんたり

▲あそく廣くはすーのちよく。●まがもぬ。●まが
きい。●まがまがが。●まがの。●竹の。●まがこ。●まが
あま。●川から。●ちいりの。●まが。●まがまが
●まがまが。●ちいりの。●まが。●まがまが。●まが
まが。●まがの。●まが。●まがの。●まが。●まが
あま。●まが。●まが。●まが。●まが。●まが。●まが
まが。●まが。●まが。●まが。●まが。●まが。●まが

▲三十三のいんてんとんぎう。●あままふあんぎうのこ
くろそろう不ろなり。そのおまの糸か。●まが
まが。●まが。●まが。●まが。●まが。●まが。●まが
まが。●まが。●まが。●まが。●まが。●まが。●まが
まが。●まが。●まが。●まが。●まが。●まが。●まが

まが丁あり。●まが。●まが。●まが。●まが。●まが。●まが
●まが。●まが。●まが。●まが。●まが。●まが。●まが
のまが。●まが。●まが。●まが。●まが。●まが。●まが
まが。●まが。●まが。●まが。●まが。●まが。●まが
●まが。●まが。●まが。●まが。●まが。●まが。●まが
まが。●まが。●まが。●まが。●まが。●まが。●まが

▲まが。●まが。●まが。●まが。●まが。●まが。●まが
まが。●まが。●まが。●まが。●まが。●まが。●まが
田まが。●まが。●まが。●まが。●まが。●まが。●まが
まが。●まが。●まが。●まが。●まが。●まが。●まが
まが。●まが。●まが。●まが。●まが。●まが。●まが

作務いよりト向げふらぶのまら

▲いせ六人ちや番屋より入て ●あを ●とを

●ふらとまらつてより

▲いざごんいいせ月より入て ●いざごんい

●ふらとまらつてより

本いの本いのいおい

作務い 大和や 大坂 系 美い賀か

本いのいといういたいのい付いのい名いついあり

明和六年 孟春正月

和州奈良大佛

井筒屋庄八版

